

自立と共生！

たくましい日本！

No. 205号

民主党 中川正春の **永田町かわら版**

2003年11月27日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128 FAX 03-3508-3428

<http://www.MASAHARU.GR.JP>E-mail g03063@shugiin.go.jp**○小泉総理が本格的議論を避けた国会**

国会では、イラクへの自衛隊派遣の是非が焦点になっています。選挙が終わって内閣発足後のはじめの国会であるにもかかわらず、総理大臣の所信表明なし、本会議での各党代表質問もなし。二日間の予算委員会の開催が精一杯。「小泉さんと与党は、やれば不利になる国会論戦からは、徹底的に逃げ始めた。」このことが、与党詰の新聞記者たちからも溜め息交じりに出てきます。

イラクとテロの問題を扱う特別委員会だけでも閉会中に開こうと、私の相手の中谷元与党筆頭理事をつかまえる努力をしています。いずれにしても12月中には集中審議をさせる事だと思っています。

○長崎で平和の原点をもう一度核軍縮会議に参加

長崎市と県がバックアップして、民間NGOが中心になって開催をした「核兵器廃絶と軍縮世界会議」のシンポジウムに参加しました。2005年に予定されるNP T(核不拡散条約)の見直しに対して、関係者が一同に意見のまとめをしていこうという趣旨です。昨年、日本の国会の中にも議員連盟が出来ました。世界の議員とのネットワークを作っていくためにも、今回の大会でカナダやニュージーランドから参加した議員とともに意見発表をして議論に参加をすることになりました。

最近の日本の様子は北朝鮮やイラクの影響もあって、核兵器廃絶や軍縮とは程遠い状況です。小泉総理はアメリカのブッシュ政権の顔色をうかがうだけ。イラクの自衛隊派遣も、そのメンツを立てることがすべてで、イラクの復興そのものは、どっかに飛んでしまっています。そのアメリカは、戦術核の開発やミサイル防衛から宇宙戦争へとエスカレートしている背景もあ

日本が核を持たずに安全保障を確立するためには、第一に、同じ境涯を持つ国々で志を統一する事。カナダ、ニュージーランド、スウェーデン、やブラジルなど中堅国家群と言われる国々は、今の世界の状況に国民的な危機感を抱き、特にアメリカのブッシュ政権を取り巻くネオコンの新保守に反対論陣を張っています。この国々を日本の仲間とすること。第二に、アメリカ一辺倒からアジアに軸足を置いた政策に転換すること。その中で、南北朝鮮と日本の北東アジアを、現在の南アメリカや東南アジアのように非核地帯として取り上げ、そのための条約締結を進めること。これは、日本の非核三原則を周辺地域に拡大することを、日本政府から提案させるという意味です。その際、中国、アメリカ、ロシアがこの協定を認知し、その取り決めの中に入ってくる事は大前提です。

このシンポジウムを通じて、感じたことがもう一つあります。カナダやニュージーランドでは、国会が国際条約の成立過程でその中味に積極的に関与していく具体的な事例を説明されて、悔しい思いをしました。日本の国会では、条約締結後にその批准をして欲しいと話があがってきます。出来上がったものの結果に対して、イエスカノーを求めてくるだけでは話にならない。改めて日本の状況を反省しました。

「日本では、外交が票にならないと言われていまず。選挙演説で外交のことを取り上げると、そんなことはどうでもいいから地元の道路整備の話をしろと言われる。」このように話をしたら、会場の日本のNGOメンバーが笑いながらうなずいていました。

○魚も、にわか釣り師は相手にしてくれません

選挙後、何年ぶりの釣りを楽しみました。近くの釣り道具屋で「裏の海では大きなスズキあがるか

って、核軍縮には消極的です。日本国内でも、北朝鮮のミサイルにあおられて、核武装容認論までが出始めているほどです。こうした流れに危機感をもって、本来の軍縮を実現するために、専門家の中でしっかり知恵を出し合おうという趣旨です。

このシンポジウムで私がこれはいいと感じた政策提言が、二つありました。

ら」と教えられて、勇みたって海岸の防波堤に陣取りました。きれいな夕焼けと汐をたっぷりと含んだ風。途中までは、久し振りの海の臭いに満足。しかし、最後は、空腹と寒さに耐え切れず釣果0で帰ってきました。釣りも、思いつきではダメと言う事か。